「(NEDO プロジェクト名称)（○～○年度))」（追跡評価）
評価コメント

委員氏名　　○○　○○

コメントして頂く際の留意点

1. 評価項目に対して、評価用資料（プロジェクト概要、事後評価、追跡アンケート調査、アウトカム達成状況、ヒアリング等）に基づき、評価コメントの作成をお願い致します。
2. 評価コメント作成にあたりましては、単に「妥当である。評価できる。」という表現だけではなく、可能な限り、妥当である理由、評価できる理由などについて、具体的な記述をお願い致します。
3. 評価コメントは評価報告書に掲載され、公開されることになりますが、「知的財産保護のため非公開とすべき事項」、「自主的企業活動に影響を及ぼすおそれのある事項」、「個人情報に関すること」、「差別的表現」、「事実と相異する意見」等、その影響を考慮して一定の配慮が必要な場合は、コメントの趣旨に反することのない範囲で、評価事務局からコメントの変更等をお願いする場合があります。
   なお、予め非公開を前提とするものがございましたら、該当するコメントに下線を記載してください。
4. 後日、メールにて本文ファイル（Word 形式）を送付致します。本電子ファイルにご記入頂き、下記の担当宛に電子メールにてご返送いただけますようお願いします。

記

期 限 ：○年○月○日（○）まで
送付先　　：○（メールアドレス）
（連絡先部門）
担当：○　宛

以上

「(NEDO プロジェクト名称)（○～○年度)」(追跡評価)
に対する評価コメント

＊注意１:「枠」の大きさにとらわれずコメントをお願いいたします。
（“３行以内”ということではございません。以下コメントも全て同様です。）
＊注意２:非公開を前提とするコメントに下線を記載してください。
＊注意３：事務局の自己評価は、最終報告書、事業者や業界団体へのアンケート、インタビュー等から収集した情報をもとに、該当すると考える情報を太字網掛けの観点で評価を実施しています。太字網掛け部分に限らず、コメントを記載いただく際は、評価項目番号（①、②・・・等）を付してください。

１．アウトカム（社会実装）の達成状況を踏まえた事業開始時の目標設定及び事業実施期間中の取組

(1) 意義・アウトカム（社会実装）までの道筋

①本事業が目指す将来像（ビジョン・目標）や上位のプログラム及び関連する政策・施策における位置づけが明確に示された上で、それらの目的達成にどのように寄与するかが明確に示されていたか。

②外部環境（内外の技術・市場動向、制度環境、政策動向等）の状況を踏まえており、本事業は真に社会課題の解決に貢献し、経済的価値が高いものであり、国において実施する意義はあったか。

③将来像（ビジョン・目標）の実現に向けて、安全性基準の作成、規制緩和、実証、標準化、規制の認証・承認、国際連携、広報など、必要な取組が網羅されていたか。

④官民の役割分担を含め、誰が何をどのように実施するのか、時間軸も含めて明確であったか。

⑤本事業終了後の自立化を見据えていたか。

⑥「アウトカム達成までの道筋」の見直しの工程において、外部環境の変化及び当該研究開発により見込まれる社会的影響等を考慮していたか。

⑦標準化戦略は、事業化段階や外部環境に応じて、最適な手法・視点（デジュール、フォーラム、デファクト）が検討されていたか。

⑧国際標準化の制定の計画は、仲間作り、TC/SC 等の設置、主導的な立場（コンビナー等）の獲得なども含めて、必要な事項が盛り込まれており、社会実装を見据えた時間軸となっていたか。

【事務局自己評価】※太字網掛けの観点で評価を実施。評価委員説明資料 〇ページ

【評価委員コメント欄】※任意（←太字網掛けがない場合は記載）

記載にあたっては、該当する評価の観点として上記番号を付してください。

また、非公開を前提とするコメントに下線を記載してください。

コメント例 ＜肯定的意見＞ ＜問題点・改善すべき点＞ ＜今後に対する提言＞

(2-1)アウトカム目標

①本事業が目指す将来像（ビジョン・目標）と関係のあるアウトカム指標・目標値（市場規模・シェア、エネルギー・CO2 削減量など）及びその達成時期が適切に設定されていたか。

②アウトカムが実現した場合の日本経済や国際競争力、問題解決に与える効果は優れていたか。

③アウトカム指標・目標値の設定根拠は明確であったか。

④達成状況の計測が可能な指標が設定されていたか。

⑤費用対効果の試算（国費投入総額に対するアウトカム）は妥当であったか。

⑥外部環境の変化及び当該研究開発により見込まれる社会的影響等を踏まえてアウトカム指標・目標値を適切に見直していたか。

【事務局自己評価】※太字網掛けの観点で評価を実施。評価委員説明資料 ○ページ

【評価委員コメント欄】※任意（←太字網掛けがない場合は記載）

記載にあたっては、該当する評価の観点として上記番号を付してください。

また、非公開を前提とするコメントに下線を記載してください。

コメント例 ＜肯定的意見＞ ＜問題点・改善すべき点＞ ＜今後に対する提言＞

(2-2) アウトプット目標

①アウトカム達成のために必要なアウトプット指標・目標値及びその達成時期が設定されていたか。

②技術的優位性、経済的優位性を確保できるアウトプット指標・目標値が設定されていたか。

③アウトプット指標・目標値の設定根拠は明確かつ妥当であったか。

④達成状況の計測が可能な指標（技術スペックと TRL の併用）が設定されていたか。

⑤前身事業がある場合、その成果とその評価結果を踏まえた目標設定を行っていたか。

⑥外部環境の変化及び当該研究開発により見込まれる社会的影響等を踏まえてアウトプット指標・目標値を適切に見直していたか。

⑦中間目標は達成していたか。未達成の場合の根本原因分析や今後の見通しの説明は適切であったか。

⑧事業終了時の最終目標は達成しているか。未達成の場合の根本原因分析や今後の見通しの説明は適切であったか。

⑨副次的成果や波及効果等の成果で評価できるものがあったか。

⑩事業化・実用化を見据えたオープン・クローズ戦略を踏まえ、また、第三者の知的財産を把握した上で、必要な特許出願等が行われていたか。さらに、成果の公表の観点から適切に論文を発表していたか。

【事務局自己評価】※太字網掛けの観点で評価を実施。評価委員説明資料 ○ページ

【評価委員コメント欄】※任意（←太字網掛けがない場合は記載）

記載にあたっては、該当する評価の観点として上記番号を付してください。

また、非公開を前提とするコメントに下線を記載してください。

コメント例 ＜肯定的意見＞ ＜問題点・改善すべき点＞ ＜今後に対する提言＞

(3) マネジメント

①執行機関（METI/NEDO/AMED 等）は適切であったか。効果的・効率的な事業執行の観点から、他に適切な機関は存在しなかったか。

②個別事業の採択プロセス（公募の周知方法、交付条件・対象者、採択審査の体制等）は適切であったか。

③指揮命令系統及び責任体制は明確であったか。

④実施者間での連携、成果のユーザーによる関与など、実用化・事業化を目指した実施体制や役割分担が検討されていたか。

⑤省内外の類似事業との連携等は適切であったか。

※"省内外"を"NEDO 内外"に読み替える

⑥アウトプット目標達成に必要な要素技術の開発は網羅され、要素技術間で連携が取れており、スケジュールは適切に計画されていたか。

⑦研究開発の進捗を管理する手法は適切であったか（WBS 等）。

⑧研究開発の継続又は中止を判断するための要件・指標、ステージゲート方式による絞り込みの考え方・通過数などの競争を促す仕組みが設定されていたか。

⑨研究開発の参加者のモティベーションを高める仕組みは適切に設定されていたか。

【事務局自己評価】※太字網掛けの観点で評価を実施。評価委員説明資料 ○ページ

【評価委員コメント欄】※任意（←太字網掛けがない場合は記載）

記載にあたっては、該当する評価の観点として上記番号を付してください。

また、非公開を前提とするコメントに下線を記載してください。

コメント例 ＜肯定的意見＞ ＜問題点・改善すべき点＞ ＜今後に対する提言＞

２．アウトカム（社会実装）の達成状況を踏まえた事業終了後の取組

①事業終了後のアウトカム（社会実装）達成のための取組及びその達成状況は妥当なものであったか。また、国の支援で有効であったものはあったか。

②アウトカム（社会実装）達成状況を踏まえ、国プロ開始時及び実施期間中に取り組むべきだったことはあったか。

【事務局自己評価】※太字網掛けの観点で評価を実施。評価委員説明資料 ○ページ

【評価委員コメント欄】※任意（←太字網掛けがない場合は記載）

記載にあたっては、該当する評価の観点として上記番号を付してください。

また、非公開を前提とするコメントに下線を記載してください。

コメント例 ＜肯定的意見＞ ＜問題点・改善すべき点＞ ＜今後に対する提言＞

３．アウトカム（社会実装）の達成状況を踏まえた事業実施期間中の研究開発評価制度

①将来像を実現するための重要度や想定される社会的インパクトを環境変化に応じて、最適な手法・視点で検証・評価できるような仕組みとなっていたか。

②成果の社会実装の観点から、人文・社会科学の専門家などの参画も含めた体制となっていたか。

③プログラム評価、プロジェクト評価及びプロジェクト内推進委員会等による評価という階層的な実施体制となっている場合、各層の評価の役割分担が明確で、それらの結果が相互連絡されるなど、合理的な体制となっていたか。

④技術分野ごとに評価項目（社会実装の方法やプロトタイプの起こし方）を設定するなど、適切な内容となっていたか。

⑤評価疲れになることを避けたシンプルで効率的なシステムとなっていたか。

【事務局自己評価】※太字網掛けの観点で評価を実施。評価委員説明資料 ○ページ

【評価委員コメント欄】※任意（←太字網掛けがない場合は記載）

記載にあたっては、該当する評価の観点として上記番号を付してください。

また、非公開を前提とするコメントに下線を記載してください。

コメント例 ＜肯定的意見＞ ＜問題点・改善すべき点＞ ＜今後に対する提言＞

【参考再掲】

経済産業省研究開発評価指針に基づく標準的評価項目・評価基準（抜粋）

令和４年１２月　経済産業省産業技術環境局　研究開発課

Ⅳ．追跡評価

１．アウトカム（社会実装）の達成状況を踏まえた事業開始時の目標設定及び事業実施期間中の取組

【以下の観点などから、今後の新規事業等の参考となるような特筆すべき点があれば記載】

(1) 意義・アウトカム（社会実装）までの道筋

・本事業が目指す将来像（ビジョン・目標）や上位のプログラム及び関連する政策・施策における位置づけが明確に示された上で、それらの目的達成にどのように寄与するかが明確に示されていたか。

・外部環境（内外の技術・市場動向、制度環境、政策動向等）の状況を踏まえており、本事業は真に社会課題の解決に貢献し、経済的価値が高いものであり、国において実施する意義はあったか。

・将来像（ビジョン・目標）の実現に向けて、安全性基準の作成、規制緩和、実証、標準化、規制の認証・承認、国際連携、広報など、必要な取組が網羅されていたか。

・官民の役割分担を含め、誰が何をどのように実施するのか、時間軸も含めて明確であったか。

・本事業終了後の自立化を見据えていたか。

・「アウトカム達成までの道筋」の見直しの工程において、外部環境の変化及び当該研究開発により見込まれる社会的影響等を考慮していたか。

・標準化戦略は、事業化段階や外部環境に応じて、最適な手法・視点（デジュール、フォーラム、デファクト）が検討されていたか。

・国際標準化の制定の計画は、仲間作り、TC/SC 等の設置、主導的な立場（コンビナー等）の獲得なども含めて、必要な事項が盛り込まれており、社会実装を見据えた時間軸となっていたか。

(2-1)アウトカム目標

・本事業が目指す将来像（ビジョン・目標）と関係のあるアウトカム指標・目標値（市場規模・シェア、エネルギー・CO2 削減量など）及びその達成時期が適切に設定されていたか。

・アウトカムが実現した場合の日本経済や国際競争力、問題解決に与える効果は優れていたか。

・アウトカム指標・目標値の設定根拠は明確であったか。

・達成状況の計測が可能な指標が設定されていたか。

・費用対効果の試算（国費投入総額に対するアウトカム）は妥当であったか。
・外部環境の変化及び当該研究開発により見込まれる社会的影響等を踏まえてアウトカム指標・目標値を適切に見直していたか。

(2-2) アウトプット目標

・アウトカム達成のために必要なアウトプット指標・目標値及びその達成時期が設定されていたか。
・技術的優位性、経済的優位性を確保できるアウトプット指標・目標値が設定されていたか。
・アウトプット指標・目標値の設定根拠は明確かつ妥当であったか。
・達成状況の計測が可能な指標（技術スペックと TRL の併用）が設定されていたか。
・前身事業がある場合、その成果とその評価結果を踏まえた目標設定を行っていたか。
・外部環境の変化及び当該研究開発により見込まれる社会的影響等を踏まえてアウトプット指標・目標値を適切に見直していたか。
・中間目標は達成していたか。未達成の場合の根本原因分析や今後の見通しの説明は適切であったか。
・事業終了時の最終目標は達成しているか。未達成の場合の根本原因分析や今後の見通しの説明は適切であったか。
・副次的成果や波及効果等の成果で評価できるものがあったか。
・事業化・実用化を見据えたオープン・クローズ戦略を踏まえ、また、第三者の知的財産を把握した上で、必要な特許出願等が行われていたか。さらに、成果の公表の観点から適切に論文を発表していたか。

(3) マネジメント

・執行機関（METI/NEDO/AMED 等）は適切であったか。効果的・効率的な事業執行の観点から、他に適切な機関は存在しなかったか。
・個別事業の採択プロセス（公募の周知方法、交付条件・対象者、採択審査の体制等）は適切であったか。
・指揮命令系統及び責任体制は明確であったか。
・実施者間での連携、成果のユーザーによる関与など、実用化・事業化を目指した実施体制や役割分担が検討されていたか。
・省内外の類似事業との連携等は適切であったか。
・アウトプット目標達成に必要な要素技術の開発は網羅され、要素技術間で連携が取れており、スケジュールは適切に計画されていたか。
・研究開発の進捗を管理する手法は適切であったか（WBS 等）。
・研究開発の継続又は中止を判断するための要件・指標、ステージゲート方式による絞り込みの考え方・通過数などの競争を促す仕組みが設定されていたか。

・研究開発の参加者のモティベーションを高める仕組みは適切に設定されていたか。

２．アウトカム（社会実装）の達成状況を踏まえた事業終了後の取組

【以下の観点などから、今後の新規事業等の参考となるような特筆すべき点があれば記載】

・事業終了後のアウトカム（社会実装）達成のための取組及びその達成状況は妥当なものであったか。また、国の支援で有効であったものはあったか。

・アウトカム（社会実装）達成状況を踏まえ、国プロ開始時及び実施期間中に取り組むべきだったことはあったか。

３．アウトカム（社会実装）の達成状況を踏まえた事業実施期間中の研究開発評価制度

【以下の観点などから、今後の評価体制等の参考となるような特筆すべき点があれば記載】

・将来像を実現するための重要度や想定される社会的インパクトを環境変化に応じて、最適な手法・視点で検証・評価できるような仕組みとなっていたか。

・成果の社会実装の観点から、人文・社会科学の専門家などの参画も含めた体制となっていたか。

・プログラム評価、プロジェクト評価及びプロジェクト内推進委員会等による評価という階層的な実施体制となっている場合、各層の評価の役割分担が明確で、それらの結果が相互連絡されるなど、合理的な体制となっていたか。

・技術分野ごとに評価項目（社会実装の方法やプロトタイプの起こし方）を設定するなど、適切な内容となっていたか。

・評価疲れになることを避けたシンプルで効率的なシステムとなっていたか。